

ピースウィンズ・ショップから

東ティモールのスタッフも愛用♪

PWJオリジナル 東ティモール独立10周年記念商品

外を歩いていると汗ばむ季節となり半袖を着ている人も多く見かけるようになりましたが、みなさんいかがお過ごですか？ピクニックやハイキングなど、清々しい風と自然を楽しむ休日もいいですね。

さて、2012年5月20日に独立10周年を迎えた東ティモールですが、ピースウィンズ・ショップではこれを記念する取り組みのひとつとして記念ロゴの入った「東ティモール独立10周年商品」の販売を開始しました。記念のロゴは、「これからも国作りと一緒に頑張って行きましょう！」というメッセージを込め、デザイナーのきくちさちこさんに作っていただきました。ロゴ中央に書かれた文字は、現地の言語・テトゥン語で「独立10周年」を意味し、東ティモールのコーヒー生産地の様子が伝わってくる温かいデザインとなっています。

オーガニックコットンを使用したTシャツは肌ざわりが優しく、暑い夏にも爽やかに着こなせます。また、気軽なプレゼントにもぴったりなピースコーヒードリップバッグ（3パック入り）もおすすめです。

ぜひ記念商品を手に取り、一緒に東ティモールを盛り上げていきましょう！



ご注文は、<http://www.peace-winds.org/shop/>

同封のご注文用紙または
TEL03-5213-4073, FAX03-3556-5772まで。

※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されています。

支援地レポート

ケニア

干ばつにより流入したソマリアからの難民を支援するため、ケニア北東州のダダーブ難民キャンプで7月末までに120戸の仮設住宅の完成を目指しています。PWJスタッフや地元業者、ホストコミュニティ、難民が一丸となって、ストコムニティ、難民が一丸となって、ブロックの製造から基礎工事、積み立てる環境でより早く暮らしていくことができる環境で建設を続けています。急ピッチで建設を続けています。



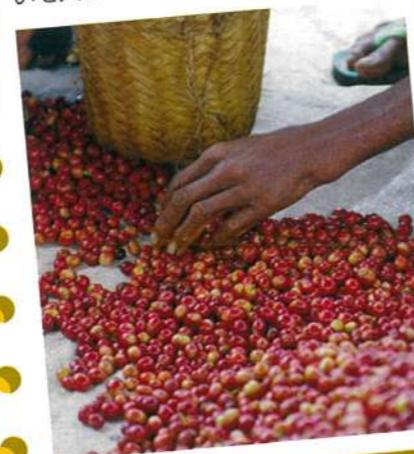
南スудан



ジョングレイ州アユド郡で、支援者のみなさまの寄付によって建設が進められた「みんなの井戸」が完成しました。ここは外部からの支援が届きにくい遠隔地で、清潔な飲み水を得ることが難しい状況にありました。村の副村長からは、「井戸ができるおかげで、村の人たちの衛生状態と健康状態が良くなりました」と感謝の手紙をいただきました。

東ティモール

2003年から始まったコーヒー生産者支援は10年目を迎えます。コーヒーの収穫のシーズンが間近に迫っています。今年のレテフォホ、リキサでのコーヒー収穫は、大収穫となりそうです。昨年の3倍以上の収量が期待できるほどの豊作で、生産者一人ひとりも気合を入れて準備を進めています。



支援のプロを、
世界の現場へ



「捜索、開始！」の号令が響き、2頭の災害救助犬が雨上がりの林に分け入る。雑木の下に隠れた負傷者を見つけて吠えると、救助隊員がチェーンソーで雑木を切り、負傷者を救出。応急処置の後、担架に乗せて搬送し、ヘリコプターに収容する準備を整える。この間約15分。隊員たちは号令のたびに「よし！」と声を出し、呼吸を合わせてきびきびと動く。

5月15日、広島県神石高原町の仙養ヶ原。ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)の災害救助犬訓練センター周辺で行われた、地震を想定した捜索・救助訓練の一コマだ。この日は、提携している大阪の救助犬訓練士2人も訓練に参加した。

PWJは、災害直後の人命救助に取り組もうと、2010年秋に救助犬の育成を始めた。ただ、現場で犬が負傷者を発見しても、消防や警察のレスキューチームにすぐ引き継げるとは限らない。そんなとき自前で最低限の救助活動ができる力を身につけるために訓練は始まり、隔週で2日ずつ、7名の受講スタッフが専門家の指導を受けている。ロープの結び方、高所から降下するための器具の扱い方、救急法など、内容は多岐にわたる。

訓練にはかなりの体力と集中力が求められ、日ごろの自己鍛錬が欠かせない。仲間同士で助け合い、心を一つにしなければ、危険を伴う現場に挑むことはできない。人命を救うということの重みを、訓練のなかでスタッフたちは身をもって学んでいる。



初動対応への新たな取り組み

次なる災害に備えを

今後の大規模災害に備えたチャレンジ (海外支援とともに、日本国内の支援事業の強化)

●新潟で始まった国内災害対応

海外の紛争地などで活動してきたPWJは、支援のノウハウを国内でも生かしたいと考え、2003年に国内災害対応の準備を始めました。初めて現場で支援に取り組んだのは、翌年の新潟県中越地震です。大手流通グループのイオングループと協力し、大型テント「バルーンシェルター」を使って避難所を運営。約450人の被災者を収容しました。バルーンシェルターはPWJが緊急支援用に帝人(株)と共同開発したものです。



バルーンシェルター

●自治体や企業との連携強化

平行して力を入れたのが、次の災害に備えた自治体や企業などの連携です。効果的な支援のために事前の準備と調整が大切だと考えたからです。静岡県袋井市、東京都世田谷区、葛飾区と支援協定を結び、防災訓練も毎年実施しています。また、ヘリコプター会社と提携するなど、物資やサービスの提供について多くの企業と交渉を重ねてきました。昨年3月の東日本大震災では、そうした準備の一端が実を結び、迅速な支援につながりました。



袋井市との防災訓練の様子

●民間の力を示すチャレンジ

救助犬の育成や搜索・救助訓練は、さらに一步、災害時の初動対応力を高めることをめざしています。従来のPWJの緊急支援は、食糧やテントなどの配布から開始していましたが、今後は、より早い段階で貢献できる人命救助に挑戦します。搜索・救助は、日本では消防や警察の役割とされ、この分野で実績をあげた民間の団体はほとんどありません。そこに風穴を開け、革新的な取り組みで民間の力を社会に示していくチャレンジもあります。

訓練を受けるスタッフたち



●先を読み万全の備えを

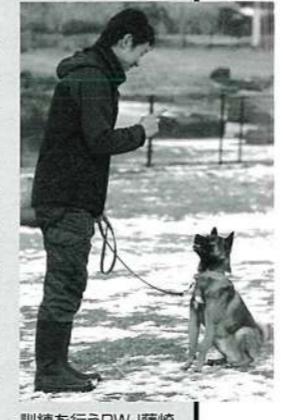
PWJの災害対応は、常に先を読み、他に先駆けて新しい手を打つことで進化してきました。南海トラフを震源とする地震や首都直下型地震をはじめ、今後も東日本大震災クラスの大災害がいつ起きても不思議ではありません。犬と人の訓練を通じて搜索・救助の能力を高め、いつでも出動できる態勢を早急に整えることはもちろん、職員一人ひとりがそれぞれの持ち場でやるべきことを真剣に考え、備えを万全にしようと努めています。

訓練を通じて命の重さを再認識

広島 災害救助犬育成トレーナー 藤崎啓

広島県神石高原町に赴任してから1年半が過ぎました。近年、殺処分対象となる犬・猫が年間約30万頭ともいわれる中で、「人によって捨てられた犬が人の命を救う」というテーマに感銘を受け、殺処分寸前であった犬たちが立派な災害救助犬として活躍できるよう、日々訓練に励んでいます。

今後の災害では、混乱した現場で犬たちとともに迅速かつ効率よく救助活動を行えるよう、私たちスタッフも初步的なレスキュー訓練を始めました。災害時のあらゆる場面を想定して行う訓練はたいへん厳しいのですが、昨年の震災を目の当たりにした私たちにとって、レスキュー訓練は命の重さを再認識させられる、とても貴重な時間です。ここ神石高原町より被災現場へいち早く駆けつけ、搜索・救助活動を行うその日に備えて、挑戦の毎日です。



訓練を行うPWJ藤崎

支援の現場から 東北発

2012年5月16日、宮城県気仙沼市内にある鹿折中学校近くに、仮設グラウンドがオープンしました。

震災後、学校の校庭には仮設住宅が建設され、生徒たちは従来の5分の1のスペースで体育の授業や部活動を行っていました。特に鹿折地区では近隣スペースの確保が難しく、公的資金ではグラウンド早期復旧の見込みも立たないことから、PWJがグラウンドの整備を支援することになりました。

グラウンドが完成し、部活動を開始した生徒は、「今まで使っていた仮設住宅の横のスペースではなく、これからは大きなグラウンドで思いっきりサッカーの練習ができるので嬉しいです」と話してくれました。また、気仙沼市長からも「三年間しかない中学校生活の中で、生徒たちには工夫して生活してもらっていますが、不都合も多々あると思います。今回、仮設グラウンドが中学校の付近にできたことは大変助かります」と、感謝の言葉をいただきました。

このグラウンドは、学校の活動のみならず、地域のスポーツ少年団や一般市民の方々にも開放するため、子どもの健全な運動機会の創出および地域コミュニティへの一助ともなることが期待されています。



開所式でスピーチを行うPWJ佐藤



広いグラウンドを走る生徒たち

東京・代々木アースデイのイベントにブース出展

4月21日、22日に東京・代々木公園で行われた日本最大級の地球フェスティバル「アースデイ」にブース出展しました。ブースでは、PWJの東北や海外での支援活動の紹介をはじめ、ピースコーヒーなどの販売を行い、PWJボランティアのみなさんに活躍いただきました。

ボランティアのみなさんとPWJスタッフ

PWJの活動にご協力ください

*認定NPO法人であるPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

【郵便振替】

口座番号:00160-3-179641

加入者名:特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

*特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等(東日本大震災の場合はその旨)を明記してください。

【銀行口座】

●PWJの活動全般へのご寄付

銀行名:三井住友銀行 青山支店

口座番号:普通 1671932

口座名義:特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

●PWJの東日本震災支援へのご寄付

銀行名:三井住友銀行 桜新町支店

口座番号:普通 6723184

口座名義:特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

*領収書が必要な場合はご連絡ください。ご連絡をいたしかねないので、領収書を発行できません。

支援者 サービスの 窓



メディア
掲載報告

- ・米新聞オレゴニアンにPWJ東北事業のわかめ支援が掲載 写真①
- ・米新聞デイリーアストリアンに、PWJの記事が掲載
- ・三陸新報、NHK、仙台放送、宮城テレビ等にPWJの仮設グラウンド整備が掲載 写真②
- ・読売新聞にPWJ西城が掲載
- ・NHKニュースおはよう日本で「南三陸町のみんなに写真集を届けようプロジェクト」が紹介 写真③
- ・BSジャパン「地球 VOCE スペシャル」でPWJスリランカ事業が紹介 写真④
- ・スタジオジブリ発行「熱風」3月号に代表理事大西の対談が掲載 写真⑤

